

## NPO法人マルベリークラブ中部

調査団体名 : NPO法人マルベリークラブ  
 設立年 : 2006年3月15日  
 団体URL : <http://mulberryc.exblog.jp>  
 活動拠点 : 愛知県豊田市足助地域、猿投地域、旭地域  
 名古屋市天白区植田東2丁目1606(事務所)  
 取材日 : 2018年12月11日

団体代表者名 : 代表理事 藤澤秀樹  
 対応してくれた人の名前 : 藤澤秀樹  
 調査員 : 高橋伸夫 沖 章枝  
 レポート作成者 : 沖 章枝

## 活動内容

## 【会の名称】

マルベリーは桑の英語名

## 【活動内容】

- 休耕田畑に桑の木を植え、育てる
- 地産地消として桑の葉茶を商品化して、オアシス21の「オーガニックファーマーズ朝市村」やヘルシーメイト等で販売。(2015年農林水産省地産地消法の6次産業事業化事業として認定を受ける)
- 蚕を育てる
- 桑・蚕・繭の有効利用を探る
- 桑・蚕・繭の魅力を伝えるため大学や専門学校と関わりを持ったり、小学校で教室を開いている

## 【活動日】

毎週金曜日と隔週の火曜日

## 【設立の動機】

近年、日本の里山は手入れする人も減り耕作放棄地が増え、その対策が地域の課題になっている。

当会は休耕田畑対策に桑を植えるという想いを核にしてNPOを立ち上げ、活動を始めた。かつては全国いたるところに桑畑は広がっていた。養蚕は日本の主要産業であったが、社会構造の変化の中で衰退した。このことが良いとか悪いとかいうのではなく、蚕がジャパンスルクと呼ばれた良質な絹を作ったのは、唯一餌にしている桑が良かったからではないかと気づいた。桑というと誰もが「蚕の餌」を連想し、養蚕という産業に埋没して思考しなかったが、命をつなぐ野菜と同じように良質の食品として人間にも活用できるのではないかと考えた。桑と同様に蚕も繭も活用できるのではないか。

歴史的な文化を伝えながら、桑、蚕、繭の新しい可能性を探究し里山の保全をしたいと思った。

## キャッチフレーズ

## 地産地消

子どもたちに桑・蚕・繭の文化を伝えよう

## 会のモットー(何を大切にしているか)

## 都市と農山村の交流

農村で作られたものを通して都市で暮らす人達に土や植物のエネルギーを体感してもらうこと

## 写真(取材時撮影)



オーガニックファーマーズ朝市村にて

## 設立から現在に至るまで変化したこと

トヨタ財団やトヨタ環境活動助成プログラム、あいちモリコロ基金をベースにして桑・蚕・繭をテーマに活動をさせていただいた。幸い結構な支援をいただいたのでさまざまな取り組みができた。例えば桑葉乾燥粉末の成分分析(日本食品分析センター)。桑の葉茶と粉末の製造。桑紙(コウゾはクワ科)、桑の枝活用のランプシェード制作。桑の草彩染紙工芸、繭の草木染め真綿、無菌養蚕システムの実践。繭、蛹、糞等の活用の検証等々。

10余年経過して、これまで培ったものをどのような形で次世代につなげていくかを考えるようになった。現在は活動資金捻出のために桑の葉茶生産が主な活動になっており、会員が毎週豊田市の作業地へ通っているが、今後は桑の葉の生産と販売を分離したほうが良いと思うようになっている。

ボランティアを募り桑の葉を摘み(年3回)、それを足助のお茶屋さんでお茶にしてもらって名古屋で袋詰めしているが、会員の高齢化等も考慮して、これからは事務所のある名古屋市で啓蒙・販売活動と子どもたちへの文化の伝承を主にしたいと考え始めている。こうした中で、新たに農業と福祉の連携という方向性が見えてきた。豊田市の無門福祉会が休耕田を手に入れたと聞いたので、当会がサポートして桑の木を植えていただくとう話し合いを進めている。桑を育て葉を摘んでもらって、買い上げる。桑の葉茶だけでなく、粉末にしてパンやケーキの材料などに運用していけるのではないかと。ただし、この基本は地産地消と考える。地域資源の活用は大規模経営ではできないと思う。季節による変化にも対応できる小規模多品種が望ましいだろう。

耕作放棄地を抱える農家にも桑の木を育ててもらって農家の収益に結びつくようにしたいと思っている。

## 連携している団体・専門家・自治体など

おいでん・さんそんセンター(山村再生担い手づくり事例集Ⅲ9頁) 無門福祉会 わっぱの会 ヘルシーメイト  
岡谷蚕糸博物館 (株)宮坂製糸所 日本シルク学会 今村無菌システム研究所

## 山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

耕作放棄田畑に桑の木を植える  
発足してから実践してきたことが山村再生をめざしてきている

## 現在直面している課題

会員の高齢化問題。後継者を探しているけれど、なかなか興味を持ってくれる人が見つからないでいる。これまで培ってきたスキルを農業と福祉の連携というかたちの事業所に伝えることで、継承していける可能性が最近でてきている。

## 今後やってみたいこと

- ◆都市生活の人に(家族を含めて)いなかの自然に触れてもらうこと。みんなが自然界の中で生かされていると感じられる機会を作りたい。自然界は一人一人に対して平等だからそれぞれのやり方で接すればよいと思う。農村は都市の本家であると言えるが、どこも勝手に立ち入ることはできないので桑畑が触れ合えるきっかけになればと考えている。
- ◆農業と福祉の連携の充実
- ◆一次産業は近くの人が携わることが望ましいと思うので、農家の人が桑を生産出来るようなシステムづくり

## そのためにはどんな情報・人脈が必要か

これまでにつながった人脈はあるけれど、更に、ある程度まとまって動けるような団体の参加が欲しい。

## チームオリジナルの質問:桑畑には獣害などの被害はないのですか

<答え>猪は木を根こそぎ倒して、鹿は葉も幹もかじる。ネットを張って対応しているけれどどこから入るのかわからない。目が離せない。絶えずチェックしないと大変なことになる。

## その他、伝えたいこと(取材者の感じたこと)

子どもの頃、親に隠れて桑の実を食べたことがあった。口の周りを赤黒く染めて直ぐに親にばれて叱られたけれど、甘い味が今でも忘れられない。童謡の「赤とんぼ」にも登場する桑の実。けれども今、どちらかと言えば田舎に属する

我が家の周辺でも桑の木をみかけなくなった。取材をしてこのことを少しも気にかけずに過ごしてきたことが恥ずかしく思われた。また、私たちは地域が担ってきた歴史と文化の恩恵に無関係では存在していないと気づかされた。NPO法人マルベリークラブ中部の新しいかたちでの桑・蚕・繭の利用の研究は、桑の葉茶だけでなく冬虫夏草などさまざまな品目に広がっていたけれど私の力では表現できないレポートになってしまった。興味のある方はNPO法人マルベリークラブ中部発行の「桑の活用について」と「桑の本」を読まれることをお勧めしたい。(沖)

写真

マルベリークラブ中部のパンフレット

**NPO マルベリークラブ中部**

くわ かいと まゆ  
**桑・蚕・繭**

**を暮らしに活かそう！**

マルベリーとは桑の木のことです。  
かつて日本で養蚕が盛んだった頃は、蚕の餌となる桑の畑が各地に広がっていました。しかし、近年日本の里山は、手入れする人も減り、荒れた耕作放棄地が増え、その対策が地域の課題となっています。私たちは、2006年に当NPOを立ち上げ、休耕田に桑を植える、という想いを核にして、活動を始めました。そして、現在は、自然と文化を次世代に繋ぐ大切さにも目を向け、桑・蚕・繭の新しい可能性を広くアピールし、持続可能な地域の里山保全と経済循環の両立を目指し、日々考え活動しています。

NPO マルベリークラブ中部  
〒468-0006 名古屋市長白区植田東 2-1606 ANP 棟 内

NPO マルベリークラブ中部 私たちの活動

- ◆ 桑を育てる ◆  
愛知県豊田市足助地区、猿投地区および旭地区で、桑を栽培しています。この地域は桑栽培に適し、かつて養蚕が盛んな地域でしたが、今ではほとんどの姿を消し、耕作放棄地が増えていきます。現在は、3,000㎡ほどの土地を焚畑に再生し、その利用に取り組んでいます。
- ◆ 蚕を育てる ◆  
桑は蚕の餌であり、かつて日本の主要産物であった養蚕業を支える重要な農産物でした。焚畑で収穫した桑の生葉を利用した蚕糸だけでなく、京都工芸繊維大学など、研究機関の指導のもとに、よりリスクの少ない養蚕技術「無菌養蚕」も取り入れ、新しい養蚕の普及をすすめています。
- ◆ 桑・繭の有効利用を探索 ◆  
桑は、糖尿病予防、ダイエット、便秘改善などに効果があり、健康食品としても注目されています。収穫した桑を「桑の葉茶」や「桑パウダー」に加して、商品化に取り組んでいます。繭は、夏織や紡ぎ糸にするだけでなく、シルクパウダーに加工するなど、そのすぐれた成分の活用を探索しています。また、これまで利用法の少なかった、蛹や蚕沙の活用に取り組んでいます。
- ◆ 桑・蚕・繭の魅力を伝える ◆  
2015年にこれからの桑、蚕、繭と題し講演会を主催。より多くの人に桑、蚕、繭に親しんでもらうための啓蒙活動を行っています。名古屋市の教育委員会主催の学童向け講座。なごや環境大学共育講座ほか、名古屋・豊田地域で料理体験会、繭あそびなどのイベントを開催。その魅力を次世代に伝え、暮らしに活かす提案を続けていきます。

マルベリークラブ中部 検索  
<https://mulberry-club-chubu.wixsite.com/mystic>

**マルベリークラブ中部の桑茶**

**桑の葉茶 (90g)**  
急須に入れてお湯を注ぎ2-3分蒸らすだけ。湯の色が対する方は少し蒸らすだけでいい。湯の色が対する方は少し蒸らすだけでいい。湯の色が対する方は少し蒸らすだけでいい。

**桑の葉ハーブティー (5パック入り)**  
ポットに入れて、熱いお湯を注ぎ、2-3分おいてお茶を淹らす。1袋につきお湯を500ccが目安。お湯の色が対する方は少し蒸らすだけでいい。

**桑パウダー (スティックタイプ30本入り)**  
桑の葉茶を全て摂取できる粉末タイプ。コップ1杯分のパウダーが入ったスティックタイプです。お湯でもお茶でも、お湯やお水に入れてかき混ぜるだけですぐにお飲みいただけます。

**桑パウダー (30g)**  
お水やお茶に、コップ1杯に小さじ半量(約7g)、500ccのお湯やお茶に小さじ1杯(約5g)を入れてください。お水やお茶に、コップ1杯に小さじ半量(約7g)、500ccのお湯やお茶に小さじ1杯(約5g)を入れてください。

NPO マルベリークラブ中部  
TEL:052-747-2663 / FAX:052-977-4294  
URL:<https://mulberry-club-chubu.wixsite.com/mystic>

**桑の葉に含まれる成分と期待される効果**

桑葉には、Q3MG、GABA、DNJ、食物繊維が含まれています。

- Q3MG (クワセフィマリニクニリン)**  
血糖値の上昇を抑える効果があり、糖尿病の予防に効果が期待できます。
- GABA (γ-アミノ酪氨酸)**  
ストレス軽減効果、リラックス効果、血圧低下効果、神経伝達物質の分泌を促す効果があります。
- DNJ (デオキシノジリマイシン)**  
小腸での糖の吸収を抑える効果があり、血糖値の上昇を抑える効果が期待できます。
- 食物繊維**  
便秘解消効果、腸内の善玉菌を増やし、腸内環境を整える効果が期待できます。

**足助地区の耕作放棄地で桑栽培!**  
我々のNPOは、耕作放棄地を利用して、地域生産・地域消費(地域地消)を推進し、地域活性化を促すため以下の活動を行っています。

1. 豊田市猿投、足助地区約3,000平米で桑を栽培
2. 地産地消として桑茶の商品化、朝市等で販売
3. 桑、蚕資源の活用、普及、啓蒙活動